

リオ+20における「緑の未来」イニシアティブ

イニシアティブのイメージ

環境未来都市の世界への普及

(1) 我が国の「環境未来都市」づくり経験の同時進行共有

- ― 途上国の都市開発関係者を被災地の環境未来都市等に年間100人招聘
- ― 「環境未来都市」構想に関する国際会議を日本で開催

(2) 途上国への支援

- ― 我が国技術をいかした日本版環境配慮型都市(スマートコミュニティ)の展開

世界のグリーン経済移行への貢献

(1) 我が国の知見を共有し、途上国のグリーン成長戦略策定・実施を支援

- ― 政策対話の強化(東アジア低炭素パートナーシップ対話, アフリカ・グリーン成長戦略等を活用)
- ― 「緑の協力隊」(今後3年間で1万人の専門家の編成)などにより, グリーン経済移行に向けた人材育成を後押し)

(2) 環境・低炭素技術導入のための途上国支援

- ― 再生可能エネルギー分野等の気候変動分野で今後3年間で30億ドルの支援を実施。
- ― 二国間オフセット・クレジット制度の構築(2013年からの運用開始を目指し, モデル事業の実施, キャパシティビルディング等を推進)

強靱な社会づくり

(1) 総合的な災害対策における途上国支援

- ― 途上国に対する強靱な社会構築のための技術, インフラ, 制度支援の強化を通じ防災の主流化を主導すべく, 今後3年間で30億ドルの支援を実施。

(2) 世界防災閣僚会議in東北(7月)

- 2005年に策定された「兵庫行動枠組」に代わる新たな国際合意の策定始動に貢献。

上記とあわせた取組(持続可能な開発のための基盤づくり)

- 生物多様性の保全及び持続可能な利用: 生物多様性条約事務局に拠出した日本基金(平成23年度40億円)を活用し, 今後4年間の途上国の能力開発に貢献。
- 持続可能な開発のための教育(ESD): 「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)の最終年である2014年に, ユネスコとの共催により「ESDに関する世界会議」を我が国(名古屋)で開催。
- 水と衛生, 適正な廃棄物管理(3R), 総合的な地球観測(GEOSS), 食料安全保障